

細田守作「時をかける少女」における

「時」の分析

序論

日本のことわざに、「時は金なり」という言葉がある。「時」というものはお金と同様に貴重であるから、無駄に使わないでよく励まなければいけない、ということである。つまり、日本の社会における「時」は非常に価値があるものである。

本論文は、アニメ「時をかける少女」の中の日本人の「時」という概念を理解し、また、「時」に対する日本社会の解釈を理解するのが目的である。研究分析するに当たっては解釈学的アプローチを使用することとする。なぜならば、このアニメの中での「時」の視点は、キャラクターの行動や考えに表れるためである。研究分析の材料としては細田 守作「時をかける少女」を使う。

本論

人類学者エドワード・T・ホールは、世界の文化はモノクロニック・タイム「M-時間」とポリクロニック・タイム「P-時間」で設定されていると述べた。同じ時間をというものに対して異なるアプローチを示そうとする。「P-時間」の文化では、時間という概念を、「M-時間」文化に比してもルーズでフレキシブルな事として理解されているため、人間関係を重ん

じてのんびりしている事が特性がある。「P-時間」文化の人たちは常に集団行動を重んじて活動をしている事が主な特性である。

一方、「M-時間」の文化では、時間は一方通行のようなものである。お金と同様に「使い切れる」、「保存できる」、「捨ててしまうもの」、「亡くなる」という特性を持ち、現実的なものとして捉えている。日本がこれら二つの概念に含まれていることを述べた。それはこのアニメからわかることがある。

日本の社会において時間は、非常に厳密であり、遅れに対する寛容はない。遅いことは、非常に悪いことである。生産的なことを何もしていない場合には怠け者と呼ばれる。将来の立案あるいは準備することは重要なこととして日本の社会で見られている。日本がこれら二つの概念に含まれているとのべた。それはこのアニメからわかる。

計画とは、準備を事前に必要とすることを意味する。それは、日本人が考える方法で適切である。それは「時間は重要であり、また時間を浪費しない」ということに表れている。

「時」に対する日本人の考え方は、「時をかける少女」の一つのシーンにより明確に描かれている。それは、主人公コンノ＝マコトがある日、臨死体験をした時のシーンである。「もう、これで終わり」という瞬間に、時間を無駄にしていた自分に悔やみを感じて、以下の独り言を言う。

マコト : まさかとは思うけど、死ぬんだ。
今日で最後なんだ。
こんな事になるなら、もっと早く起きたのに
寝坊なんかしないし、遅刻もしない
てんぷらももっとうまく揚げる
ばかな男子にぶつかられたりしない
今日は確か、ナイスな日なのに。

しかしマコトは生き残った。ある奇跡によって、目の前の死を逃れ、事故が発生する前の時空に戻る事ができた。この奇妙な事件に気づき、マコトは叔母に話をして説明を求めた。何故かタイムリープという事象を十分に理解している叔母から、時空移動という事の説明を聞いて、悟った。

マコトは、自分の力に気づいて自分でタイムリープをやってみた。成功して喜んでいるマコトはすべての自分の体験を叔母に楽しく話した。夢中になっているマコトをみていると、叔母は忠告を与えた。

叔母さん : よかった。
マコト : 何で？
叔母さん : たいした事を扱っていないみたいだから。
マコト : そんな事ないよ。
もう最高だね、タイムリープ。やめられないよ、これ。。
毎日が楽しくて、楽しくて笑いが止まりませんよ。
(大笑い)
叔母さん : マコトがいい目に見ていれば、悪い目を見てる人がいるんじゃないの？
マコト : え??いるのかな。
叔母さん : さあ。
マコト : いないよね！ 何があってもだいじょうぶ。
またもどればいいんだもん。何回だってリセットできるもんね。

上記のセリフには、この映画が伝えたいモラルのヒントがある。

「時」の流れを変えてしまうと、他人に影響が出ないということはない。どんなに小さくても、影響は必ずあるということである。マコトがタイムリープで良い事にあって喜びを感じた一方、その喜びの分、他人が悪い目をみる事で世界のバランスが取れている。

マコトにとって、楽しい時間が過ぎて取り戻せる事がよい事である事を意識しても、周りには、マコトの代わりに悪い目に遭遇する人がいる。周りに起こった不幸のすべては、自分が除けたトラブルばかりだと気づき、マコトは悔いる気持ちを感じ始めた。

結論

「時をかける少女」は、日本人の目で見ると「時」とは何かという事を示すほかに、それに対しての日本人がもっている「時」の意識を強調している。

主人公マコトは非常に「時」にこだわっている。もっと極端な言い方をすると、「時のとりこ」とも言えると思う。こだわりすぎて、過ごした時間にミスをおこしたら、時計の針を戻したいぐらいという気持ちは、誰もが感じた事があると言うが、マコトは違う。マコトは実際に時をかける事ができる。自分がやったミスを直せる。

残念ながら、時のトンネルに戻り自分のミスを取り直す事だけに集中して、周りの人達の気持ちを無視して傷つけていった。マコトは、自分

の良い都合だけに時をかけて遊びものになっている時、周りとの良い関係が悪くなってしまう。

このアニメの作成者は、モノクロニックの現代の人で、集団的な日本の社会の方々である。そのため、「時は金なり」ということわざを心得ている日本人として、「時」は大事で貴重なものだという非常に良いことであるが、「時」だけではなく、人間関係も大事にすることだという。現代人向けの批判の声を伝えるため、このアニメを作ったと言う。

マコトは「時」とお「金」重んじている物質社会に生活している現代人の代表である。何かのミスを犯した時に、自然に時の流れに罪のつぐないを探り友達を近くに招くよりも、自分の犯したことだけに後悔して、回りの友達を自分からますます遠くに追いやっていくの選択してしまった。

マコトは前を向いて罪をつぐなうよりも、後ろに去った過去を直し正すことをえらんで、自分がやった行為の結果を避けて予想以外の災いを招く。このアニメは物質世界に傾いている現代人を批判して、人間関係も忘れてはいけなさと忠告している。

INTERPRETASI MAKNA WAKTU FILM *TOKI WO KAKERU SHOUJO* (時をかける少女)

Taufan Prayoga

Universitas Kristen Maranatha

Abstrak: Tujuan penelitian ini adalah untuk memaparkan bagaimana interpretasi makna waktu seperti yang tercermin dalam film *Toki wo Kakeru Shoujo*. Penelitian yang berfokus pada satu judul anime *Toki wo Kakeru Shoujo* ini menggunakan percakapan dari para tokoh yang terdapat dari beberapa adegan dalam film yang mampu menggambarkan pemaknaan terhadap waktu yang menjadi pokok pembahasan pada penelitian ini. Penelitian ini menggunakan metode analisis deskriptif kualitatif dengan pendekatan studi sastra. Hasil penelitian dapat dikemukakan bahwa masyarakat Jepang modern yang Monokronik sekaligus juga bagian dari masyarakat yang berpegang pada prinsip kolektifisme, ingin menyampaikan bahwa sebagai orang Jepang yang memegang erat peribahasa ‘waktu adalah uang’, menyadari bahwa waktu adalah benda penting nan berharga itu suatu hal yang baik. Namun mereka juga ingin menyampaikan kritik sosial untuk manusia modern bahwa hubungan antar manusia pun adalah hal yang penting untuk dijaga, dan ini terlihat dari bagaimana mereka memahami betapa pentingnya waktu bagi mereka.

Kata kunci: interpretasi waktu, makna waktu, monokronik, polikronik

Abstract: The purpose of this study is to describe how the interpretation of the meaning of time as reflected in the film *Toki wo Kakeru Shoujo*. The study focused on *Toki wo Kakeru Shoujo* anime is using the conversation from the figures that there are several scenes in the film were able to describe the meaning of the time is in issue in this study. This research uses descriptive analysis method qualitative approach to the study of literature. The results of the research suggested that the modern Japanese society that Monokronik as well as sections of society adhering to the principle of collectivism, would submit that as the Japanese who hold tight to the adage 'time is money', realize that time is important objects nan precious a good thing , But they also want to convey to a modern human social criticism that any human relationship is an important thing to be kept, and this shows how they understand how important time for them.

Keywords: interpretation of the time, meaning of time, monochronic, polychronic

Universitas Kristen Maranatha

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL.....	i
HALAMAN PENGESAHAN.....	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS.....	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....	iv
KATA PENGANTAR.....	v
DAFTAR ISI.....	vi
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Penelitian.....	1
1.2 Pembatasan Masalah.....	5
1.3 Tujuan Penelitian.....	5
1.4 Pendekatan dan Metode Penelitian.....	5
1.5 Organisasi Penulisan.....	9
BAB II PERSPEKTIF WAKTU.....	11
2.1 Definisi waktu.....	11
2.2 Konsep Waktu.....	14
2.3 Konsep Waktu di Jepang.....	19
BAB III ANALISIS MAKNA WAKTU DALAM FILM	
<i>TOKI WO KAKERU SHOUJO</i>.....	23
3.1 Interpretasi Waktu Tokoh Makoto.....	23
3.2 Makna Waktu dari Tokoh-tokoh Lain.....	33
3.3 Makna Waktu Lainnya Dalam Film <i>Toki wo Kakeru Shoujo</i>	39

BAB IV SIMPULAN.....	45
SINOPSIS.....	viii
DAFTAR PUSTAKA.....	xiii
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	xv

